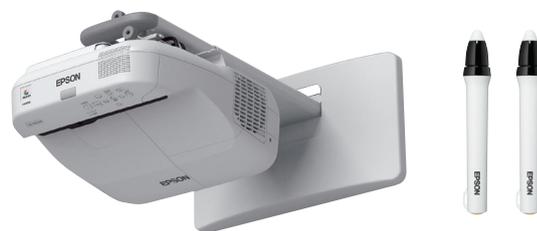


インタラクティブ機能付プロジェクター導入で、 顧客企業のガスタービン発電設備の遠隔監視を強化 万一の異常時には司令室として情報を発信

価格: オープンプライス
明るさ: カラー 3100ルーメン
全白 3100ルーメン
質量: 5.6kg

宇宙航空・エネルギー機器、建機等の総合重機メーカーであるIHIは、ガスタービン発電プラント事業で顧客企業に販売した発電設備の遠隔監視を行う「お客さま 運用支援センター」を本社内に開設した。発電設備の運転状態など様々なデータを解析し、不具合の兆候や異常を検知する施設で、集められたデータを表示して対策を練るためのICT機器として、エプソンのインタラクティブ機能付きプロジェクター「EB-1410WT」を4台導入した。運用支援業務の高度化、各拠点とのコミュニケーションの強化を目的とする同センターで、インタラクティブ機能付プロジェクターがいかなる役割を担っているのか、センターを管轄する柴沼 徹氏と島田紀一氏にお話を伺った。



インタラクティブ機能付プロジェクター・超短焦点モデル EB-1410WT



導入機種: EB-Gシリーズ(2台)
EB-1410WT(4台)、電子ペン
設置: 3台連動で壁掛け設置
投影素材: 壁面をホワイトボード
素材に加工

所在地: 東京都江東区豊洲三丁目1-1 豊洲IHIビル
最寄駅: 東京メトロ、ゆりかもめ・豊洲駅
URL: <http://www.ihi.co.jp/>

Before

ニーズ・問題

- 新設する「お客さま 運用支援センター」のICT設備の強化
- 顧客のガスタービン発電プラントに発生したトラブルやその予兆を迅速に共有する
- トラブル発生時の会議で多数の関係者が同時に情報を共有する
- 企業PRの役目もあるため、センターの見栄えにも貢献させたい

After

導入後

- テレビ会議を通じて遠隔地にある拠点とのコミュニケーションが強化できた
- プロジェクター3台を連動させ、横長のレイアウトでひと目で多くの情報を得られるようになった
- 多くの情報を迅速に共有できることで、対策立案の質が向上した
- 機能性はもちろんデザインの調和を取ることができて、顧客満足につながった

選定理由

世界中から集まるビッグデータを効果的に活用できるプロジェクター

ガスタービン発電プラントは、顧客企業の工場や生産ラインを稼働させるなど事業の根幹を支えている。発電停止となれば、顧客に大きな損害を与えてしまうため、IHIでは世界各国の企業に納入したプラントのアフターサービスに注力している。2013年12月に新設された「お客さま 運用支援センター」はその中枢という位置付けである。24時間モニタリングしている各プラントの運用データからトラブルまたはその予兆が読み取れたら、担当者や設計者が分析、必要ならば同センターで幹部が対応を協議して実行するという流れになっている。

同センター開設にあたっては、情報処理の速度を上げるとともに、短時間で正確に情報を共有できることが求められた。特に共有に関しては、「センターに集まった社員だけではなく、各地の営業拠点も含めて迅速かつ正確に多くのデータを共有することも重要」(原動機PJ統括部次長の柴沼徹氏)で、インタラクティブ機能付プロジェクターが選定

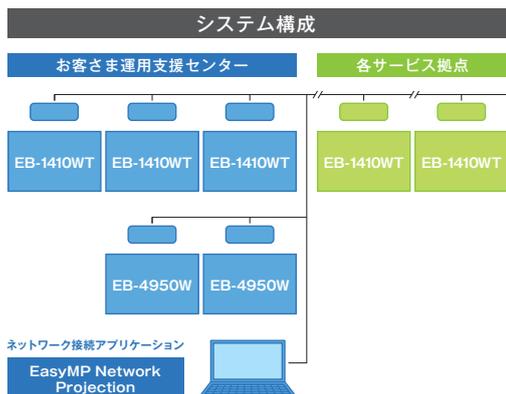
されるに至った。同センターの他に都内の工場とサービスセンターにも1台ずつ導入されている。

超短焦点や外観も選定理由の一つとなった。同センターは、アフターサービス体制を顧客にアピールする役目もあり、隣接する見学エリアから内部が見える構造のため空間デザインにもこだわった。「視野角の広く横長のレイアウトによって画面を確認でき、室内の色味を統一できてデザインの調和を取れた」(IT企画推進部 島田紀一氏)とのこと。なお、見学エリアにもお客様への説明用にインタラクティブ機能付プロジェクターが設置されている。



株式会社IHI
エネルギーセンター
プロジェクトセンター
原動機PJ統括部
次長

柴沼 徹 氏



▲システム導入前

以前は、投影専用プロジェクター1台とアナログホワイトボードを使用していた。

▶システム導入後

3連のインタラクティブ機能付プロジェクターで、多くの情報を迅速に共有できる「お客さま 運用支援センター」。



導入効果 異常検知の際はテレビ会議で迅速な対策も可能、司令室の効率化に貢献

「お客さま 運用支援センター」には、インタラクティブ機能付プロジェクターならびに投映専用プロジェクター、高性能パソコン、テレビ会議システム、複数モニターなどのICT機器を導入している。顧客のガスタービン発電プラントの制御システムともインターネットで結んで情報を共有、本社からプラントの制御パラメーター等を操作できるようになっている。

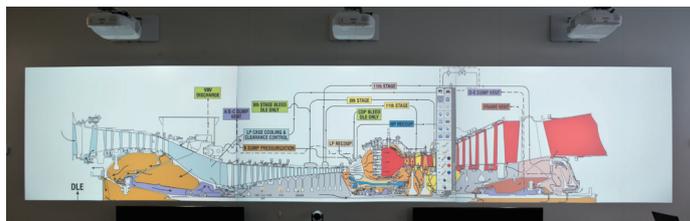
センター開設以前も同様の対策室があったが、投映専用のエプソン製プロジェクター1台とテレビ会議システム、アナログホワイトボードという設備であった。遠隔地の拠点とのテレビ会議では、プロジェクターで情報を投映したホワイトボードをカメラで写して、相手に提示するという手段を取っていたようだ。インタラクティブ機能付プロジェクターの導入により、「センターで書き込んだものが拠点でも見えることは大きなポイントです。ホワイトボードにカメラを向けていたときと比べれば、会議の効率化に大きく貢献しています」と柴沼氏。

また、インタラクティブ機能付プロジェクターは、3台が連動する形で設置され、多くの情報を共有、ホワイトボード機能でもより多くの議事録を書き込めるようになっている。迅速に共有できるデータを物理的に増やす狙いであったが、実際に使ってみると大きな成果が出ているという。「プロジェクター1台で会議を行っていた時は、表示スペースが少ないとは誰も思いませんでした。3連になりスペースが増えて、いろいろなデータを表示してみたら便利だと気付いたのです。対策立案の質を上げてくれたことは間違いありません」と(島田氏)。

3連仕様にしたことで、ひとつの画像を3画面にわたって表示したり、ホワイトボード機能では画面をまたいで線を入力するといったこともできるようになっている。特に、3連をひとつの画面にできることで、ガスタービンの断面図を実物大で表示することも可能になっている。「トラブルが起きた場合に、その場所を説明する時にとっても便利です。現在は、接続するパソコンの壁紙にガスタービンの図を設定して、会議の途中にすぐに出せるようにしています。地味なことかもしれませんが、3連プロジェクターのスケールメリットによる副産物でした」と島田氏は笑顔を見せていた。



「お客さま 運用支援センター」に社員は常駐しておらず、遠隔監視で予兆があった場合に担当者が対応にあたる。



3台連動で、ひとつの画面に拡大表示することも可能。ホワイトボード機能の書き込みも画面をまたぐことができる。



すりガラスをクローズし、投映した状態。



センター側にプロジェクターを設置、見学エリアのガラス面に投映する。ガラスを透けて内部を見ることができる。

今後の展望 「impressive!!」顧客企業からの信頼も大幅向上

「お客さま 運用支援センター」は、顧客ならびに新市場へ向けた企業PRの役割も担っているが、見学エリアを訪れた顧客からの反応も上々のようだ。「活動の見える化を推進するという側面もありましたので、海外のお客様が「Impressive!」を連呼してくださったのは、とても嬉しかったです。また、日本のお客様からは「サポートに対する本気度を感じることができた」というありがたいお言葉もいただきました」と柴沼氏。印象的な3連仕様のインタラクティブ機能付プロジェクターをはじめ、各種ICT機器の導入と効果的な活用が顧客の信頼につながり、IHIのブランディングにも貢献しているのである。

今後の活用については、3連という特殊な設置のため、インタラクティブ

機能の連動性を強化することが課題になってくる。また、同センターではトラブルなどの突発的な会議以外に、前日の運用データを確認・分析する会議が毎日行われているが、インタラクティブ機能を深く理解して使いこなせるようになっていくとのこと。そして、世界中にいる顧客のアフターサービスをさらに強化するため、国内各地をはじめ、アメリカやタイなどの拠点にもインタラクティブ機能付プロジェクターを導入して情報の共有と効率的な利用を進めていく計画である。



株式会社IHI
エネルギー・プラントセクター
IT企画推進部 主査

島田紀一氏

お問い
合わせ

プロジェクターインフォメーションセンター
☎ 050-3155-7010

製品に関するご質問・ご相談に電話でお答えします
受付:月~土曜日
(祝日・弊社指定休日を除く。詳しくはホームページをご覧ください)

*左記電話番号はKDDI株式会社の電話サービスを利用しています。
*左記番号をご利用いただけない場合は、携帯電話またはNTT東日本、NTT西日本の固定電話(一般回線)からおかけいただくか、042-503-1969までおかけください。